

## 世界史 B

1

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

紀元前3世紀中ごろ、イラン系民族のアルサケスがイラン高原北部に（ 1 ）を建国した。（ 1 ）は紀元前2世紀にメソポタミアを征服し、都（ 2 ）を建設した。さらにローマとしばしば戦いながら、東西交易路を独占し中継貿易で繁栄した。（ 1 ）では、当初はヘレニズムの影響が強く、ギリシア語が用いられたが、のちにペルシア語が公用語となり、イラン土着の文化を重んじるようになった。その後、3世紀にイラン高原南部から出たササン朝ペルシアのアルダシール1世によって滅ぼされた。

ササン朝2代目の（ 3 ）は、ローマ軍をうち破って皇帝を捕虜とするなど、威信を高めた。ササン朝は、5世紀後半に中央アジアの遊牧民（ A ）の侵入を受けて一時弱体化したが、6世紀には第21代の（ 4 ）が（ B ）と結んで（ A ）を滅ぼし、東ローマ帝国に対しても優勢を保った。しかし東ローマとの長い抗争は衰退を招き、642年の二ハーヴァンドの戦いでイスラーム勢力に敗れ、まもなく滅亡した。

ササン朝では、ペルシアの伝統を重んじて（ 5 ）教を国教とし、経典『（ 6 ）』を編纂した。その一方で、東西文化の交流によってキリスト教や仏教も伝わり、さまざまな宗教を融合した（ 7 ）教が生まれた。ガラス器など精巧な装飾を特徴とするササン朝美術の影響は、中国を経て日本にまで及び、正倉院などに伝わる工芸品にそれを見ることができる。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 7 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 文中の空欄（ A ）と（ B ）にあてはまる王朝名または民族名の組み合わせでもっとも適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. A＝エフタル・B＝グプタ朝      イ. A＝突厥・B＝エフタル

ウ. A＝エフタル・B＝突厥      エ. A＝突厥・B＝グプタ朝

問3 下線部(a)に関連して、西アジアから中央アジアを経由して東アジアまでを結んだ交易路は何と呼ばれるか、答えよ。

問4 下線部(b)に関連して、この戦いで勝利した当時のイスラーム勢力の第2代正統カリフは誰か。次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ムアーウィヤ      イ. アブー＝バクル      ウ. アリー      エ. ウマル

## 2

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

十字軍をきっかけに東方との交流が盛んになる12世紀のヨーロッパでは、ビザンツ帝国やイスラーム圏からもたらされたギリシアの古典が、本格的にラテン語に翻訳されるようになり、それに刺激されて学問や文芸も発展した。教会の権威の理論的確立のために、信仰を論理的に体系化しようとするスコラ学は、ギリシアの哲学の影響を受けて壮大な体系となり、『神学大全』を著した（ 1 ）により大成されて教皇権の理論的支柱となった。イスラーム科学の影響も大きく、実験を重視した自然科学は、のちの近代科学を準備するものとなった。

大学が誕生するのも12世紀頃からである。それまで教育と学問の中心は田園地域の修道院にあったが、商業の発達とともに都市の大学に移った。ヨーロッパ最古の大学といわれる北イタリアの（ 2 ）大学は法学で有名であり、1158年に神聖ローマ皇帝によって自治権を認められた。

中世の美術を代表するものは、教会建築である。11世紀頃には厚い石壁に小さな窓をもつ重厚な（ 3 ）様式が生み出され、ピサ大聖堂などが有名である。つづく12世紀頃にあられた（ 4 ）様式は、頭部のとがった尖塔アーチと空高くそびえる塔を特徴とし、窓はステンドグラスでかざられた。フランスのシャルトル大聖堂はその典型である。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 4 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、1095年にクレルモン宗教会議を招集し、聖地イェルサレムの奪回を提唱した人物の名前を答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、学問にラテン語がもちいられたのに対し、中世騎士の理想像や冒険を題材とした口語による騎士道文学も中世には生まれた。その代表的な作品を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア.『パンセ』 イ.『アーサー王物語』 ウ.『プリンキピア』 エ.『天路歷程』

問4 下線部(c)に関連して、スコラ学では、实在論と唯名論とのあいだの普遍論争が、その中心的議論であった。イタリア出身で实在論の代表的論者であり、のちにカンタベリ大司教となった人物を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. アンセルムス イ. アベラール ウ. パスカル エ. ウィリアム・オブ・オッカム

問5 下線部(d)に関連して、「万学の祖」と称され、『政治学』を著した古代ギリシアの哲学者の名前を答えよ。

問6 下線部(e)に関連して、13世紀に活躍して「実験科学」の誕生に寄与したイギリスの自然科学者を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ガリレイ イ. ニュートン ウ. マルコ・ポーロ エ. ロジャー・ベーコン

## 世

問7 下線部 (f) に関連して、6 世紀にイタリアのモンテ=カシノに創設され、「祈り、働け」をモットーとした修道会を、次の ア～エ から1つ選び、記号で答えよ。

- ア. フランチェスコ修道会    イ. シトー修道会    ウ. ベネディクト修道会  
エ. ドミニコ修道会

3

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

16世紀後半、スペイン王（ 1 ）がネーデルラントにカトリックを強制し、都市に重税を課したため、貴族が自治権を求めて反抗し、これにカルヴァン派<sup>(a)</sup>の商工業者が加わって、オランダ独立戦争がはじまった。カトリック勢力の強い南部（ 2 ）州は途中で脱落したが、ホラント州など北部（ 3 ）州は1579年（ 4 ）同盟を結び、イギリス<sup>(b)</sup>の援助を受けて戦いつづけた。そして、1581年に独立を宣言し、独立運動の指導者（ 5 ）公ウィレム（ウィリアム）を統領とするネーデルラント連邦共和国（オランダ）を成立させ、1609年にスペインと休戦した。<sup>(c)</sup>

オランダは、バルト海交易で栄えたうえ、1602年に（ 6 ）会社を設立してアジアに進出し、ジャワ島の（ 7 ）（現ジャカルタ）を根拠地に、ポルトガル<sup>(d)</sup>商人を排除しつつ香辛料貿易の実権をにぎった。さらに1623年の（ 8 ）事件を転機にイギリスの勢力をインドネシアから締め出して、のちのオランダ領東インドの基礎を固め、またアジアへの中継地として1652年に南アフリカに（ 9 ）植民地を築いた。

（ 10 ）は、オランダ独立戦争時に衰退したアントウェルペンにかわって、国際商業と金融の中心として繁栄し、現在もオランダの首都である。また、17世紀前半にオランダでは学芸も盛んになり、（ 11 ）は明暗を強調する画法によって市民の姿を描き、「夜警」などの作品を残した。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 11 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。なお、（ 2 ）（ 3 ）には数字が入る。

問2 下線部(a)に関連して、カルヴァンによる一種の神権政治が行われた都市はどこか、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ジュネーヴ    イ. チューリヒ    ウ. ヴォルムス    エ. トリエント

問3 下線部(b)に関連して、1588年にスペインは無敵艦隊とよばれる遠征隊をイギリスに派遣したが、当時のイギリスの国王は誰か、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ヘンリ7世    イ. ジェームズ1世    ウ. エリザベス1世    エ. メアリ1世

問4 下線部(c)に関連して、オランダの独立が国際的に承認されたのは、ある戦争の終結の際に結ばれた条約によってであった。その戦争とは何か、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. 三十年戦争    イ. シュマルカルデン戦争    ウ. アメリカ独立戦争    エ. イタリア戦争

問5 下線部(d)に関連して、1498年にヴァスコ＝ダ＝ガマが到達した、インド西南部の港市はどこか、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. シャンデルナゴル    イ. マドラス    ウ. ポンディシェリ    エ. カリカット

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

第一次世界大戦が終わると、1919年1月からパリ講和会議が開かれたが、敗戦国は参加できず、ソヴィエト政府も招かれなかった。この会議では、アメリカ合衆国大統領（ 1 ）が1918年1月に発表した（ 2 ）が基礎とされたが、戦勝国が自国の利益を主張したため、国際連盟の設立<sup>(a)</sup>以外はほとんど実現しなかった。とくにフランスは、ドイツの弱体化をはかって、苛酷な講和条件を押しつけた。そのため、1919年6月に調印されたヴェルサイユ条約で、ドイツはすべての植民地を失い、（ 3 ）両地域のフランスへの返還、軍備の制限、（ 4 ）の非武装化、巨額の賠償金などが課され、国内に強い不満と恨みを残した。他の同盟<sup>(b)</sup>国も、協商国（連合国）とそれぞれ個別に講和条約を結び、領土を縮小させられた。

ヴェルサイユ条約と一連の諸条約によって成立したヨーロッパ中心の新しい国際秩序をヴェルサイユ体制という。アジアなど従属諸地域も、このヴェルサイユ体制に組み込まれた。列強は、自国の支配下にあるエジプト、インド、朝鮮などの独立要求を無視し、ドイツの旧植民地やオスマン帝国の領土を国際連盟の<sup>(c)</sup>（ 5 ）という形で分配し、<sup>(d)</sup>民族自決の原則は東欧にしか適用されなかった。

戦後、日本が列強の一員となり、東アジア・太平洋地域で勢力を拡大すると、アメリカ合衆国大統領ハーディングのよびかけで、1921年から翌年にかけてワシントン会議<sup>(e)</sup>が開かれた。この会議で決まった東アジアの国際協調システムを、ヴェルサイユ体制に対してワシントン体制とよび、この両体制が1920年代の国際秩序の柱となった。

当初きわめて不安定であったヴェルサイユ体制も、1923年以降の西欧経済の回復とソ連の政策転換<sup>(f)</sup>を背景に安定していき、そのなかで国際協調の機運が生みだされた。すでに1922年、ドイツとソヴィエト＝ロシアの間で（ 6 ）が結ばれて両国の国交が再開され、独・ソ封じ込め体制がゆらいでいたが、1924年から翌年にかけてアメリカ合衆国を除く列強がつぎつぎとソ連を承認した。また、1925年に結ばれた（ 7 ）では、ドイツと西欧諸国との国境の現状維持と相互保障が決まり、翌年ドイツは国際連盟に加入した。1928年には、（ 8 ）が調印され、国際紛争解決の手段として戦争に訴えないことが誓われた。

問1 （ 1 ）～（ 8 ）に当てはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、国際連盟についての記述として誤っているものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えよ。

- ア. 日本は主要執行機関である理事会の常任理事国であった。
- イ. ソヴィエト＝ロシアは当初排除されていたが、その後加入した。
- ウ. 国際連盟の本部はスイスのジュネーヴにおかれた。
- エ. 世界保健機関（WHO）と常設国際司法裁判所が付置された。

問3 下線部 (b) に関連して、同盟国との講和条約について誤っているものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えよ。

- ア. 協商国（連合国）とオスマン帝国との間ではセーヴル条約が結ばれ、イラク・パレスチナ・シリア全域とアラビア半島の放棄、イスタンブールと隣接地以外のギリシアへの割譲などが定められた。
- イ. 協商国（連合国）とオーストリアとの間ではサン=ジェルマン条約が結ばれ、領内からチェコスロヴァキア・ハンガリー・ポーランドなどが独立した。
- ウ. 協商国（連合国）とハンガリーとの間ではトリアノン条約が結ばれ、オーストリアから独立した旧ハンガリー領からは、スロヴァキア・クロアチア・トランシルヴァニアが分離した。
- エ. 協商国（連合国）とブルガリアとの間ではブカレスト条約が結ばれ、大戦中に奪った領土をルーマニアに返還するなどした。

問4 下線部 (c) に関連して、インドの反英運動弾圧のため、1919年にインド政庁が発布した法律の名称を答えよ。

問5 下線部 (d) に関連して、パレスチナ地方について、イギリスが第一次大戦中、アラブ人にオスマン帝国からの独立を約束した協定と、ユダヤ人のパレスチナ復帰運動を援助する姿勢を示した宣言の名称を、それぞれ答えよ。

問6 下線部 (e) に関連して、ワシントン会議では各国の主力艦の保有率と上限が決められた。残された補助艦の制限について決定した1930年の会議の名称を答えよ。

問7 下線部 (f) に関連して、戦時共産主義から政策を転換し、1921年からソヴィエト政府が実施した経済政策の名称を答えよ。